ひたちおおた

てくてくウォーク 52

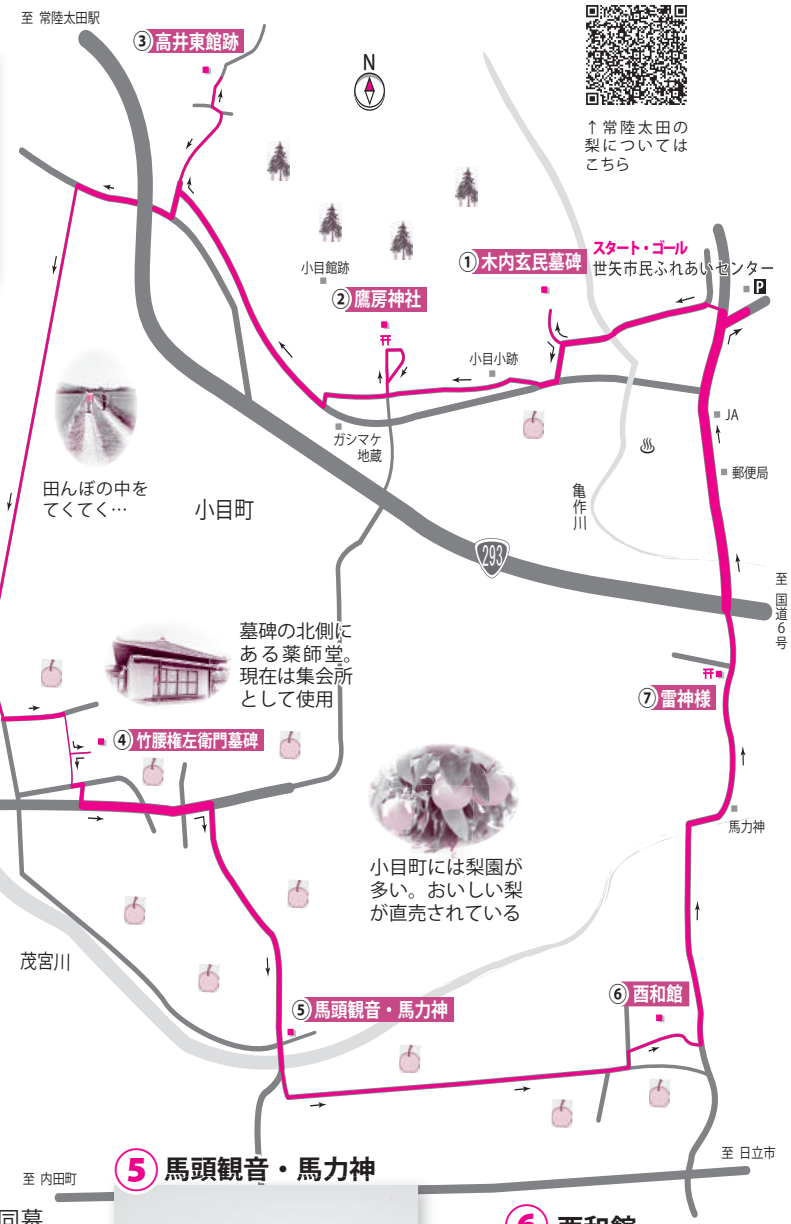
市内の自然・史跡や特産品なども交えて見どころをお伝えしながら、地元の身近なウォーキングコースを紹介していきます。意外と知られていない名所や素晴らしい自然を巡りながら、皆さんも歩いてみませんか。

問 文化課エコミュージアム推進室（☎72-3201）

小目町ハイキングコース

距離：約7km　所要時間：約3時間

市の南部に広がる小目町を、ぐるっとひと回りするコースです。まず北部の台地周辺をてくてく。台地上には、神社や佐竹氏一族の館跡などがあります。そこから南へ水田地帯を進み、豆飼地区へ。梨畑を眺めながら茂宮川を渡り、東へ向かうと新沼地区に到着。酉和館で偉人の志に思いをはせた後、国道293号方面へ北上しゴールへ。高台と平地、点在する先達の足跡、そして特産品の梨など、見どころの多い小目町を歩いてみてください。



① 木内玄民墓碑

荒代共同墓地にある。江戸時代の医師木内玄民は名を政芳といい、村人の健康を守るため、大雨や深夜でも診療に走り回ったという

② 鷹房神社

小目地区の鎮守。祭神は健羽槌命。八幡太郎義家伝説により神社名が付けられた。ご神体は植物の“篠”で、矢篠と呼ばれる。この境内を含め東西120m、南北100mの範囲が小目館跡。佐竹氏一族の有力者の居館といわれる

③ 高井東館跡

天文年間（1532～55）の築館。館主は於曽能氏といわれる。堀や土塁が残る

④ 竹腰権左衛門墓碑

豆飼共同墓地にある。権左衛門は数学の専門家で、現在の長野県出身。文化11(1814)年ごろ小目に移り住んだ。地域の人々に手習いや和算を教えたという

⑤ 馬頭観音・馬力神

豆飼地区に散在していたものを昭和59（1984）年11月に1カ所に集めた

⑥ 酉和館

明治から昭和にかけて活躍し、「日本酪農の父」といわれた黒澤酉蔵の生家跡に建つ。酉和館は、地元の集会所として、酉蔵と弟の和夫が市に寄贈したもの

⑦ 雷神様

川中子地区の氏神。水戸の雷神様の分社として祭られる。毎年7月18日に御田植祭が行われている